

2026年6月14日

## 主日礼拝

礼拝讃美歌⇒325番  
『救い主イエスと』

聖書⇒コヘレトの言葉 12章1節 (SK 兄)  
『青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。  
苦しみの日々が来ないうちに。  
「年を重ねることに喜びはない」と／  
言う年齢にならないうちに。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 5章8節  
『しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、  
神はわたしたちに対する愛を示されました。』

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 3章16a節  
『キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。』

(祈り)

聖書⇒詩編 121編 3~6節 (MM 姉)  
『どうか、主があなたを助けて／  
足がよろめかないようにし／  
まどろむことなく見守ってくださるように。  
見よ、イスラエルを見守る方は／  
まどろむことなく、眠ることもない。  
主はあなたを見守る方／  
あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。  
昼、太陽はあなたを撃つことがなく／  
夜、月もあなたを撃つことがない。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒313 番

『主に頼る者は』

聖書⇒イザヤ書 55 章 8~11 節 (KT 姉)

『わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／  
わたしの道はあなたたちの道と異なると／

主は言われる。

天が地を高く超えているように／

わたしの道は、あなたたちの道を

／わたしの思いは／

あなたたちの思いを、高く超えている。

雨も雪も、ひとたび天から降れば／

むなしく天に戻ることはない。

それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ／

種蒔く人には種を与え／

食べる人には糧を与える。

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も／

むなしくは、わたしのもとに戻らない。

それはわたしの望むことを成し遂げ／

わたしが与えた使命を必ず果たす。』

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 3 章 1~4 節

『さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒316 番 (KH 兄)

『わが眺むるは』

## 《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22 章 14~20 節 (KH 兄)

『時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言うておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。言うておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

(式)

礼拝讃美歌⇒144 番

『憂きこと四方に』

## 《建徳》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 9 章 19~23 節 (HK 兄)

『わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法に支配されている人に対しては、わたし自身はそうではないのですが、律法に支配されている人のようになりました。律法に支配されている人を得るためです。また、わたしは神の律法を持っていないわけではなく、キリストの律法に従っているのですが、律法を持たない人に対しては、律法を持たない人のようになりました。律法を持たない人を得るためです。弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 9 章 18 節

『では、わたしの報酬とは何でしょうか。それは、福音を告げ知らせるときにそれを無報酬で伝え、福音を伝えるわたしが当然持っている権利を用いないということです。』

聖書⇒歴代誌下 24 章 15~18 節 (KH 兄)

『ヨヤダは年老い、長寿を全うして死んだ。死んだとき、彼は百三十歳であった。その遺体はダビデの町に諸王と共に葬られた。彼はイスラエルにおいて神とその神殿のために著しい貢献をしたからである。ヨヤダの死後、ユダの高官たちが王のもとに来て、ひれ伏した。そのとき、王は彼らの言うことを聞き入れた。彼らは先祖の神、主の神殿を捨て、アシェラと偶像に仕えた。この罪悪のゆえに、神の怒りがユダとエルサレムに下った。』

聖書⇒歴代誌下 24 章 1~3 節

『ヨアシユは七歳で王となり、四十年間エルサレムで王位にあった。その母は名をツイブヤといい、ベエル・シェバの出身であった。ヨアシユは祭司ヨヤダの生きている間は主の目にかなう正しいことを行なった。ヨヤダは二人の妻を彼にめとらせ、彼らの間に息子や娘が生まれた。』

聖書⇒歴代誌下 24 章 19~22 節

『彼らを主に立ち帰らせるため、預言者が次々と遣わされた。しかし、彼らは戒められても耳を貸さなかった。神の霊が祭司ヨヤダの子ゼカルヤを捕らえた。彼は民に向かって立ち、語った。「神はこう言われる。『なぜあなたたちは主の戒めを破るのか。あなたたちは栄えない。あなたたちが主を捨てたから、主もあなたたちを捨てる。』』ところが彼らは共謀し、王の命令により、主の神殿の庭でゼカルヤを石で打ち殺した。ヨアシユ王も、彼の父ヨヤダから寄せられた慈しみを顧みず、その息子を殺した。ゼカルヤは、死に際して言った。「主がこれを御覧になり、責任を追及してくださいますように。』

聖書⇒歴代誌下 32 章 33 節

『ヒゼキヤは先祖と共に眠りにつき、その遺体はダビデ一族の墓のある丘に葬られた。その死にあたってすべてのユダとエルサレムの住民が彼に敬意を表した。その子マナセがヒゼキヤに代わって王となった。』

聖書⇒歴代誌下 33 章 1~3 節

『マナセは十二歳で王となり、五十五年間エルサレムで王位にあった。彼は主がイスラエル人の前から追い払われた諸国の民の忌むべき慣習に倣い、主の目に悪とされることを行なった。彼は父ヒゼキヤが取り壊した聖なる高台を再建し、バアルの祭壇を築き、アシェラ像を造った。更に彼は天の万象の前にひれ伏し、これに仕えた。』

聖書⇒歴代誌下 33 章 12~13 節

『彼は苦悩の中で自分の神、主に願い、先祖の神の前に深くへりくだり、祈り求めた。神はその祈りを聞き入れ、願いをかなえられて、再び彼をエルサレムの自分の王国に戻された。こうしてマナセは主が神であることを知った。』

礼拝讃美歌⇒256番 (KH 兄)

『歌いつつ歩まん』

《建徳要旨》